

# 農作物病害虫発生現況情報（7月） りんご編

## 1 斑点落葉病

- (1) 基準圃場（北上市成田、スターキングデリシャス、無防除）における初発は例年並の6月第1半旬となり、発病葉率は7月第2半旬までは平年より低く推移したが、7月第3半旬に急増した（図1）。
- (2) 7月後半の巡回調査でのふじの発生園地率は45.2%（平年43.2%）で平年並だったが、一部園地では流れ型病斑が発生した（図2）。また、発生度は15.3（平年14.8）で平年並だった（図3）。

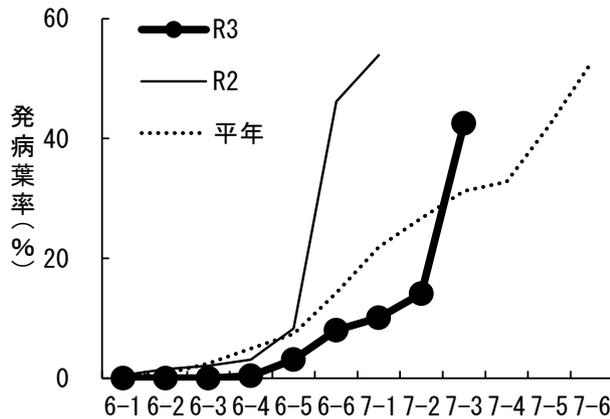


図1 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移（月-半旬、スターキングデリシャス、新梢葉）

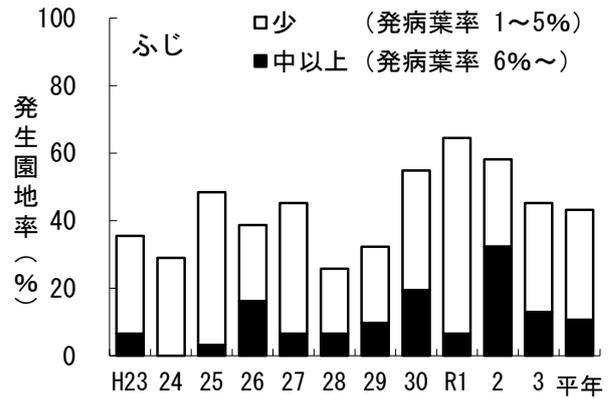


図2 斑点落葉病の発生園地率の年次推移（ふじ、7月後半、徒長枝上位10葉）

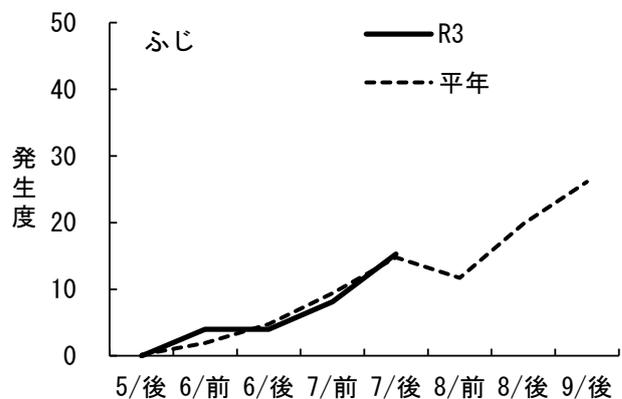
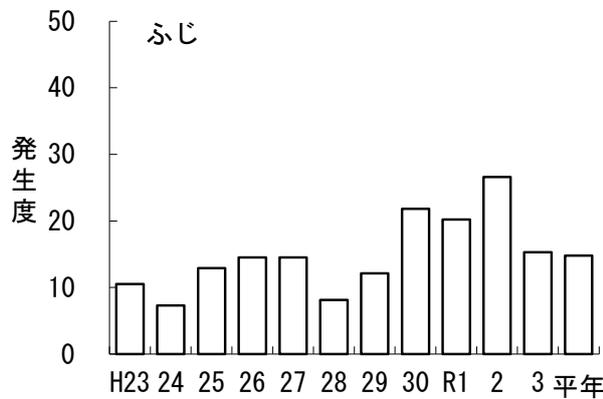


図3 斑点落葉病の発生度（ふじ、左図：7月後半の年次推移、右図：時期別の推移）

※1 「発生度」 = (4A + 3B + 2C + D) × 100 / (調査園地数 × 4)、A: 発病葉率 21%~、B: 11~20%、C: 6~10%、D: 1~5%の園地数

※2 5月後半は果叢葉、6月前半~7月前半は新梢葉全葉、7月後半以降は徒長枝先端10葉による調査。

## 2 黒星病

- (1) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は29.0%（平年5.8%）で平年より高かった（図4）。
- (2) 県内で広く発生しており、特に県中部で発生園地率が高かった（図5）。

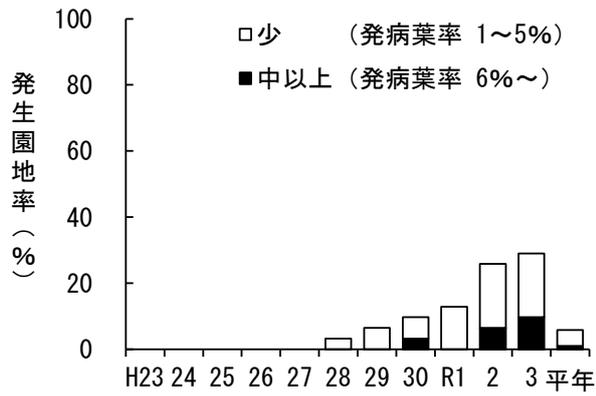


図4 黒星病の発生園地率の年次推移 (7月後半、徒長枝葉)

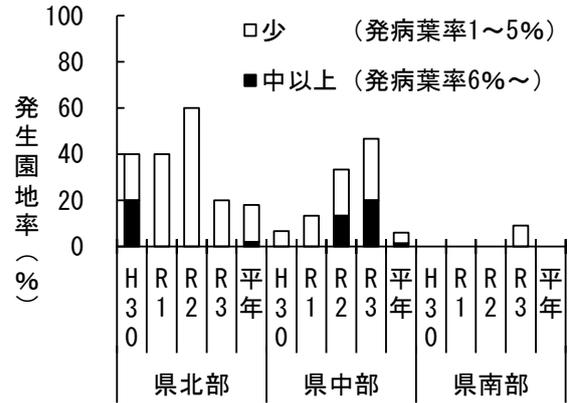


図5 黒星病の地域別発生園地率 (7月後半、徒長枝葉)

### 3 褐斑病

- (1) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) における初発は例年よりやや早い6月第2半旬となり、発病葉率は平年より高く推移し、7月第3半旬に急増した (図6)。
- (2) 7月後半の巡回調査では、発生園地率は9.7% (平年6.1%) で平年よりやや高かった (図7)。
- (3) 地域別では、県中部及び県南部で発生が確認された (図8)。

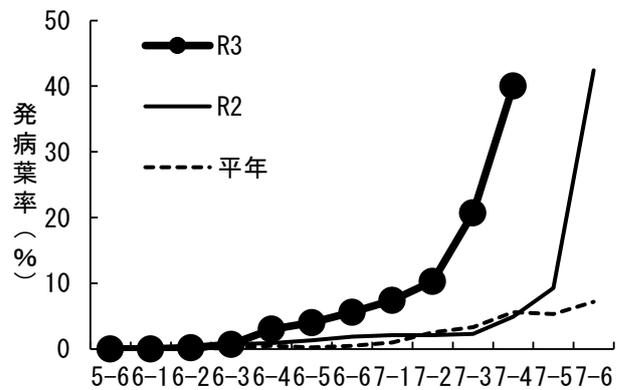


図6 基準圃場における褐斑病の発病葉率の推移 (月-半旬、ふじ、新梢葉)

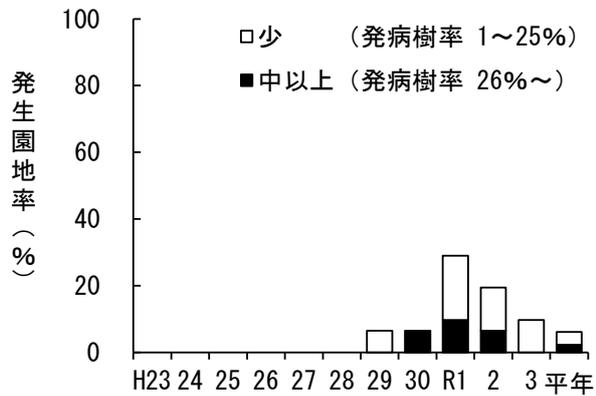


図7 褐斑病の発生園地率の年次推移 (7月後半)

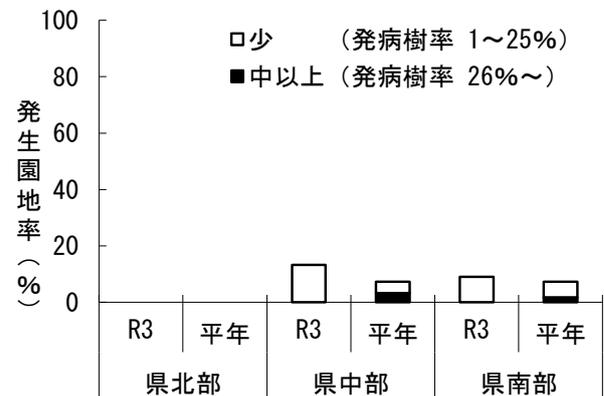


図8 褐斑病の地域別発生園地率 (7月後半)

#### 4 キンモンホソガ

(1) 7月後半の巡回調査でのキンモンホソガ第2世代の発生園地率は3.2%（平年6.5%）で、平年よりやや低かった（図9）。

#### 5 ギンモンハモグリガ

(1) 7月後半の巡回調査でのギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率は0%（平年23.5%）で、平年より低かった（図10）。

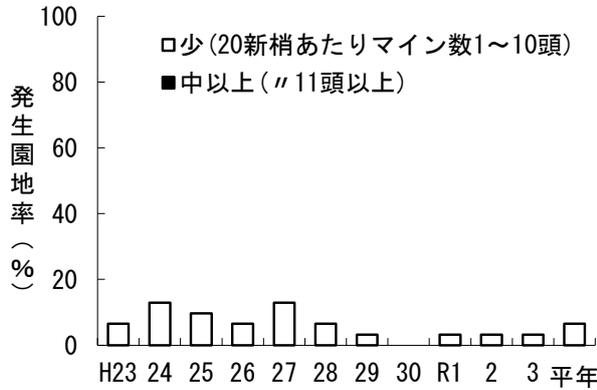


図9 キンモンホソガ第2世代の発生園地率の年次推移（7月後半）

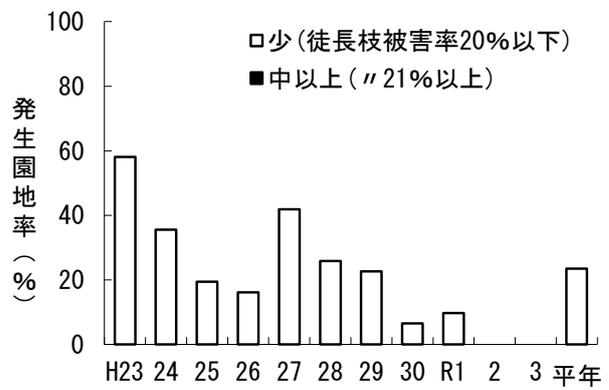


図10 ギンモンハモグリガ第3世代の発生園地率の年次推移（7月後半）

#### 6 リンゴハダニ

(1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は目通り 29.0%（平年16.8%）、樹上部31.0%（平年16.4%）で、ともに平年より高かった。また、発生程度が中以上は目通り 6.5%（平年4.2%）で平年並、樹上部3.4%（平年7.0%）で平年よりやや低かった（図11）。

(2) 目通りの時期別の発生程度中以上の園地率は、平年並に推移している（図12）。

(3) 目通りの地域別発生園地率は、県北部と県中部で発生程度の高い園地がみられた（図13）。

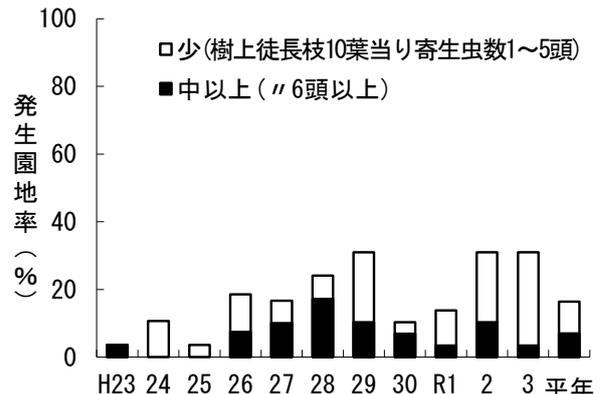
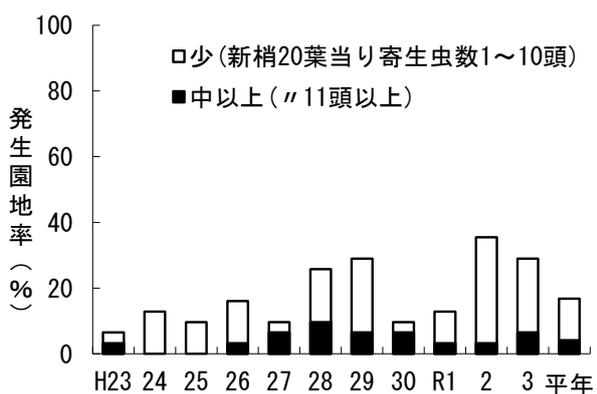


図11 リンゴハダニの発生園地率の年次推移（7月後半、左：目通り、右：樹上部）

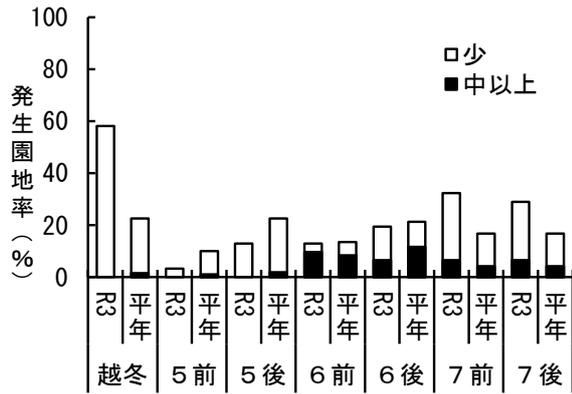


図12 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

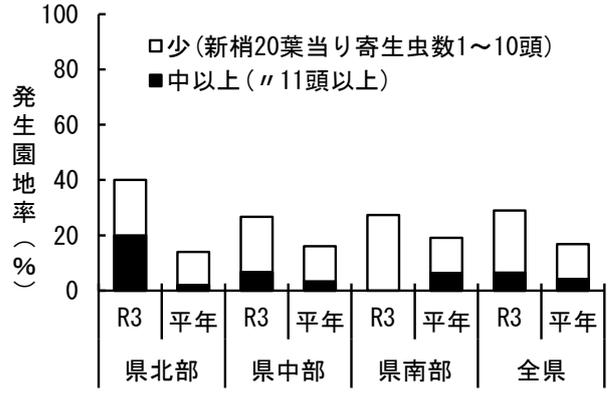


図13 リンゴハダニの地域別発生園地率 (7月後半、目通り)

## 7 ナミハダニ

- (1) 7月後半の巡回調査での発生園地率は、目通りで51.6% (平年40.6%) で平年よりやや高く、樹上部34.5% (平年35.7%) で平年並であった。また、発生程度が中以上は目通り12.9% (平年14.0%)、樹上部17.2% (平年12.6%) でともに平年並であった (図14)。
- (2) 目通りの時期別の発生程度中以上の園地率は、概ね平年並に推移している (図15)。
- (3) 目通りの地域別発生園地率は、県北部で発生程度の高い園地が多かった (図16)。

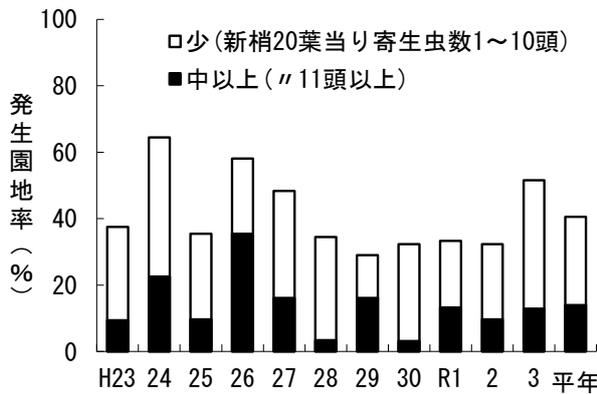


図14 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (7月後半、左：目通り、右：樹上部)

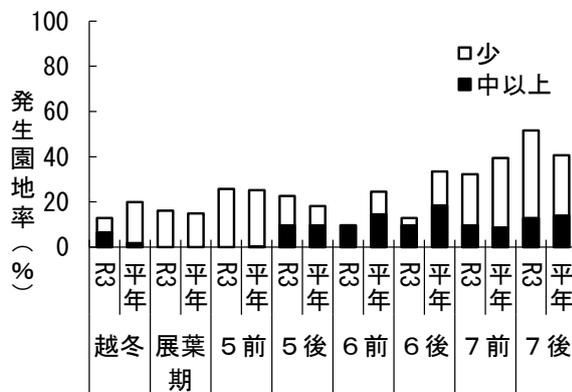


図15 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (目通り)

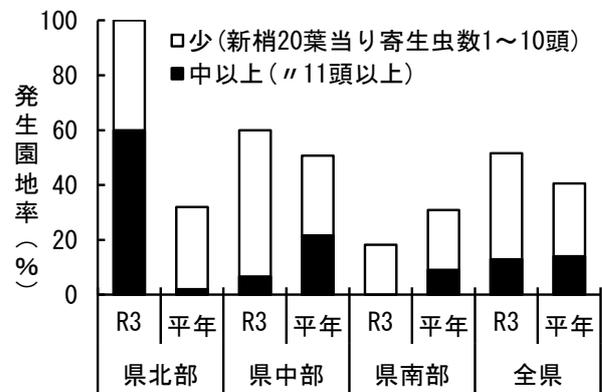


図16 ナミハダニの地域別発生園地率 (7月後半、目通り)

## 8 シンクイムシ類

(1) 7月後半の巡回調査での被害果発生園地率は0%（平年0.3%）で、平年並であった（図17）。

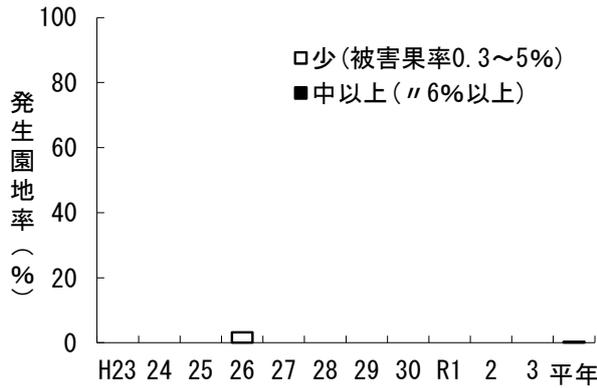


図17 シンクイムシ類の発生園地率の年次推移 (7月後半)

## 9 果樹カメムシ類

- (1) 7月後半の巡回調査での被害果発生園地率は48.4%（平年28.8%）で、平年よりやや高かった（図18）。
- (2) 被害果の時期別発生園地率は、6月後半から平年より高く推移した（図19）。
- (3) 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃では平年より多く、現地では概ね平年並に推移している（図20、図21）。
- (4) 予察灯へのクサギカメムシの誘殺数は、7月第4半旬頃に平年より高くなった（図22）。

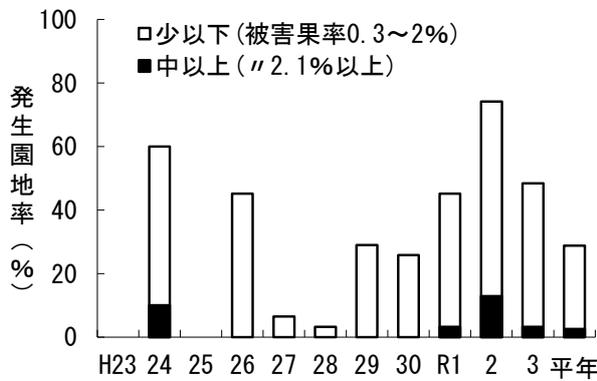


図18 果樹カメムシ類被害果の発生園地率の年次推移 (7月後半、ふじ)

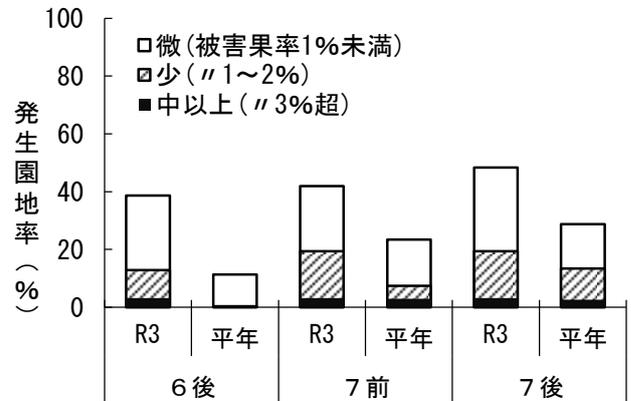


図19 果樹カメムシ類被害果の時期別発生園地率の推移 (ふじ)

※7月前半の平年値のみ過去9年(H24~R2)の平均

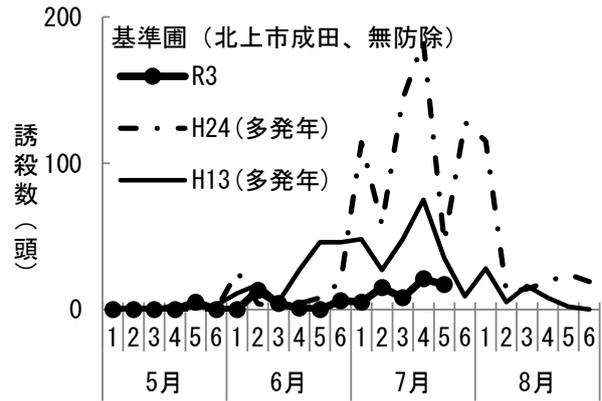
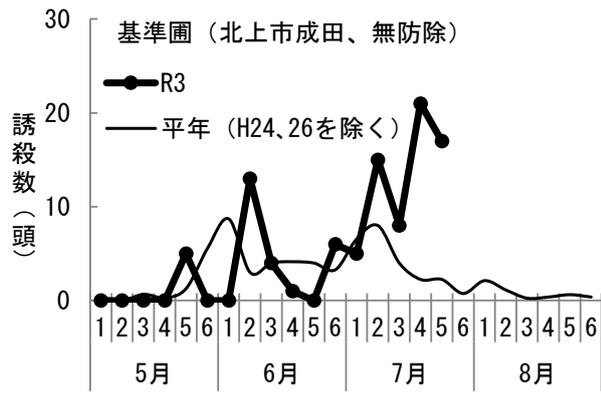


図20 基準圃場におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況  
(基準圃 (北上市成田・無防除)) (左: 平年との比較、右: 多発年 (H13、H24) との比較)

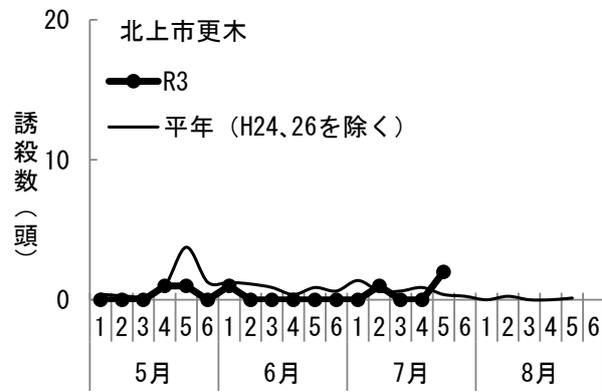
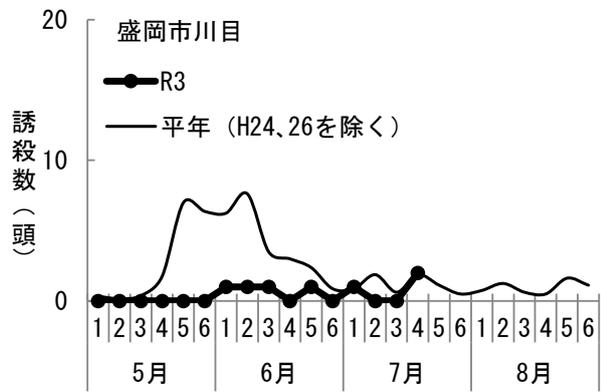


図21 チャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの誘殺状況  
(左: 盛岡市川目、右: 北上市更木)

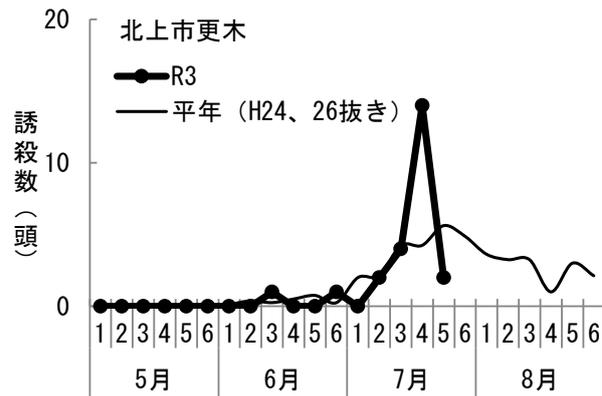
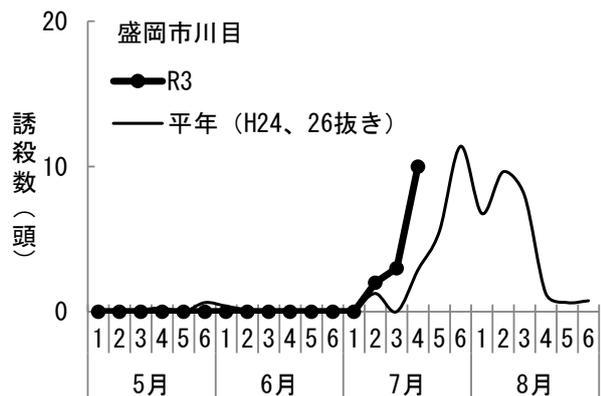


図22 クサギカメムシの予察灯への誘殺状況  
(左: 盛岡市川目、右: 北上市更木)